

番組

狂言 二人袴

親 野村又三郎

男 奥津健太郎
太郎冠者 奥津健一郎
舅 野村 信朗

後見 伴野 俊彦
藤波 徹

狂言小話 猿

唄

井上松次郎

鹿島 俊裕
米倉 宏貴

狂言 蝸牛

山伏 善竹 十郎

主人 善竹大二郎
太郎冠者 茂山 良暢

後見 山口 耕道

狂言 花子

洛外の者 松田 高義

妻 野口 隆行
太郎冠者 奥津健太郎

後見 井上松次郎
野村又三郎

附 祝言

(休憩二十分)

(終了予定 午後四時頃)

御挨拶

いつも「やるまい会 名古屋公演」に際しましては、多大なる御支援・御後援を賜りまして、誠にありがとうございます。また、

毎年5月の恒例となりました本公演も、今年で第59回を迎える事となりましたが、昭和45年に亡師父・十三世野村又三郎の下に入門して以来45年、先代高弟・当家番頭として、本業と二足の草鞋で父・私と二代に亘って野村派を支えてきてくれた松田高義儀が本年還暦を迎えたのを記念し、大曲「花子」を披かせる運びとなりました。

「披キ(ひらき)」とは、狂言の修業過程における節目の曲を初演する事で、「那須語」「三番叟」を義務教育に、また「釣狐」を卒業論文に例える事がありますが、それには「花子」は修士論文に相当するもので、本来ならば直接の師である亡父・先代又三郎が伝授し、後見を務めて見届ける場所ですが、今回は16年前に披いた弟子子である私が、一回り以上も年上の兄弟子に稽古をつけるという形になり、互いにどこか面映い、気持ちが無きにも非ずで……。

とは言え、平成14年の「釣狐」の披キから14年が経過しており、謡を多用した大曲の披キをするには、本人にとっても年齢的・体力的にハードルが高くなるのは否めませんが、満を持して還暦で臨む「花子」を温かく見守って頂き、加えて円熟の域に進んでいく身に厚誼の叱咤激励を頂ければ、師家としても幸いに存じます。

また、今回の企画では敢えて「謡」を用いた狂言ばかりを選んで配曲しており、本年斯道四十年となる私は、まだ未成年ではありますが、戦国時代ならば元服の歳となる倅を花婿に配して、親子のドタバタ劇を扱った「二人袴」を勤めさせて頂きます。

会主 野村又三郎

《演目紹介》

【狂言 一人袴(にんばかま)】

結婚した倅の髷入りに際し、父親は腰の重い倅を追いついてて舅宅へ行かせようとはしますが、肝心の髷はあれこれ理由を付けて、なかなか行こうとしません。仕方なく舅宅の門前まで同伴で向かうのですが：

髷入りとは、結婚後に初めて妻の実家に赴き、義父と盃を交わして親子の契りを結ぶという中世の風習儀式で、和泉流には「髷物」と呼ばれる作品群として髷入りを題材にした狂言が、本曲の他に「鶏髷」「音曲髷」「口真似髷」など十数番あります。基本的には髷の初々しさと祝言性を重視していますが、本曲は形式的な構成から脱却・進化した展開になっており、親離れ・子離れが出来るない事が問題視されている現代にも通じる、傑作狂言の一つです。

【小謡 猿 唄(さるうた)】

狂言「朝猿」の曲中で、子方(子役)の猿が舞う際に謡われるもので、歌詞が秀逸で、独特の節回しが特徴の一曲です。

【狂言 蝸 牛(かぎゅう)】

長命の祖父の更なる長寿を願う主人は、長寿の秘薬と噂される蝸牛(カタツムリ)を藪で捕ってくるよう太郎冠者に命じます。ところが、蝸牛を見知らぬ太郎冠者が探

しにきた藪には、大峰山や葛城山での修行を終え羽黒山へ帰国する山伏が昼寝をしており、その姿が主人から教えてもらった蝸牛の特徴と合致していたため、山伏を蝸牛と思ひ込んでしまい：

荒唐無稽とも思われる童話的な内容ですが、太郎冠者の実直さを軸として、山伏と主人とのトライアングルが理屈抜きに面白い、「山伏物」と呼ばれる作品群の代表曲です。

【狂言 花 子(はなご)】

洛外(京都郊外)に住む男は、一年前に東国方へ下る際に立ち寄った美濃国野上宿(現在の岐阜関ヶ原)で、花子という名の遊女と盃を交わしますが、その女のあまりの美しさに惹かれ一夜の契りを結びます。ところが、その花子が男を慕って上京し、何度も「逢いたい」と手紙を送ってきます。勿論男も直ぐにでも逢いに行きたいのですが、勘の鋭い妻の目が厳しいために、たった二度の返信が出来ただけで、逢う事が出来ません。そこで男は「計を案じて」二世代の大勝負に挑みますが：

能「班女」を下地にした後日譚とも言われており、話の筋は単純な浮気話の失敗談ですが、「小歌」と呼ばれる流麗で叙情的な狂言謡を多用する事で、卑俗さ・猥雑さを目立たなくさせるといふ高等技術が要求される、修業過程における大きな節目の狂言です。

《公演案内》

◆7月18日(海の日)午前10時30分開演

(於名古屋能楽堂)

狂言 也留舞会(愛好家による発表会：入場無料)

狂言「鼻取相撲」「痺」「いろは」「重喜」「梟山伏」「清水」「杭か人か」「盆山」「茶壺」「鎌腹」「舍弟」「竹生島参」「柿山伏」「舟船」「伯母ヶ酒」「飛越」「膏葉煉」「欄宜山伏」ほか

◆7月23日(第4土曜)午前10時30分開演

(於名古屋能楽堂)

第9回 まいまい狂言会(子連れママの会/3歳から入場可能)

狂言「重喜」野村又三郎・野村 さよ
狂言「附子」野村 信朗・奥津健太郎・奥津健太郎
狂言ワークショップ 野村又三郎

◆9月19日(敬老の日)午後1時30分開演

(於日黒喜多能楽堂)

第32回 狂言やるまい会 東京公演

狂言「才宝」野村又三郎・野口 隆行
奥津健太郎・野村 信朗
狂言「蝸牛」奥津健太郎・伊藤 泰・奥津健太郎
狂言「泣尼」野口 隆行・松田 高義・野村又三郎

◆11月26日(第4土曜)午後2時開演

(於名古屋能楽堂)

第15回 狂言三の会(又三郎斯道四十周年記念)

狂言「三本柱」野村又三郎・伊藤 泰
野村 信朗・奥津健太郎
狂言「舟船」野村又三郎・松田 高義
狂言「武恵」野村又三郎・奥津健太郎・野口 隆行

あなたも「狂言」「謡」「舞」のお稽古をはじめませんか？
年齢性別国籍経験など一切不問です。また稽古場の見学や体験入門、出張による公演講演・講座なども随時受け付けておりますので、【野村事務所】までお気軽にお問い合わせ下さい。